

令和6年度森林吸収源インベントリ情報整備事業九州ブロック現地講習会報告

開催日：2024年5月31日（金）

時間：9時00分～16時35分

場所：ID：430050（熊本県上天草市）

受講者：（株）九州自然環境研究所（8名）

講師：稲垣昌宏（責任者）、酒井佳美、鳥山淳平（森林総研九州支所）、相澤州平（森林総研立地環境研究領域）

場所の概要：段々畑の跡地と思われる尾根地形のヒノキ人工林である。全体的に傾斜は緩やかで見通しはよく、枯死木調査は容易であった。一方で土壌調査地点はそれぞれ、大礫の存在、平面な地形、コンクリート法面の近さ、採取地点を横切る水道パイプ、などの困難さを抱えていた（写真1～4）。

講習会概要：予報通り午前中は雨天であったが、午後からは雨が上がった。調査経験をもつ受講者の主導のもと、参加者全員で調査杭を確認した。中心杭は速やかにみつかったが、南地点には仮杭を打設し、ラインを設置した（写真5）。枯死木調査では2班に分かれ（写真6、7）、土壌調査では受講者2名ずつ、4班に分かれた（写真8）。土壌調査の際は、森林総合研究所の講師4名がそれぞれの班についた。

指摘事項：

- ・根や大礫により断面位置が多少ずれる可能性があるため、粗掘りが済んでから堆積有機物採取枠を設置すること
- ・野帳記入に使用する鉛筆はHB以上の色の濃い芯を使用すること
- ・大量の堆積有機物の仕分けに時間がかかると思われる場合、現場でTとKをまとめて採取し、日没前に現場を離れ、帰路の安全を確保したのちに分別することも検討すること
- ・タイムマネジメントに気を付けること

質問と回答：

質問：もし堆積有機物採取枠内に、落下枝に付着した枯れ葉で高さ1.5m以下の空中に浮いているものがあった場合、Kとして採取対象とするか？

現場の回答：落下枝は接地しているため直径5cm未満の部分を堆積有機物として採取対象とするが、葉は接地しておらず、鈹質土層と連続していないため、堆積有機物として採取対象としない。（回答は本所で後日確認し、回答内容に変更がないことを伝えた。）

全体講評：調査員が非常に丁寧に作業を進める点が、高く評価された。一方で、未経験者を中心に、適切な調査道具をすぐに取り出すための段取りに課題がみられ、経験の蓄積に伴い改善することが期待された。



写真 1：礫の多い東地点の土壌



写真 2：奥に水道パイプが走る北地点の土壌



写真 3：平坦地形の南地点の土壌



写真 4：法面直上の西地点の土壌



写真 5：林相写真の撮影



写真 6：根株と立枯木の調査（南北ライン）



写真7：倒木調査（南北ライン）



写真8：経験者による断面整形（西地点）